

		④人権教育を推進することで、 子どもたちが他者を尊重しよう とする意識が高まっている。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満で あった。	4				D	0	・生きる力を育成する！大変大切な取り 組みだと思っています。生きるとは食べて行 く又食べさせて行くという主体的な責任 感を通じてゆくと考えます。創造性豊か な子どもたちの育成を更にお願いま す。 ・ハッピーボードはとてもよいと思いま す。できれば担任の先生が副担任の先 生と話し合って、担当クラス全員の良		
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした 各教科等での学習など を通じて継続的に道徳 教育を実施し、豊かな 情操や道徳心の育成を 図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	児童アンケート 「先生は、いろい ろ工夫しながら授 業をしている。」に 肯定的に回答 した割合	4: 90% 以上	・児童アンケート(回答数491名)の 肯定的評価は96. 5%であり、昨 年度より3. 3ポイント上昇した。基 礎的な学力を定着させるためには 一人一人の理解に応じたきめ細か な指導が必要である。本校では、3 年生以上の学年で算数の授業を3 クラス5展開する「習熟度別少人数 指導」や、年20回の「土曜補習教 室」を行っている。さらに、各教科の 学習時に、電子黒板や児童用タブ レット端末等のICT機器を効果的 且つ日常的に活用している。今後も ICT機器を授業や家庭学習に積極 的に活用し、ICT機器を有効に活用 することで学習効果のさらなる伸長 を図っていく。 ・「体力向上」については、児童ア ンケート(回答数491名)「運動を もっとしたい。」と84. 7%の児童が 肯定的に回答している。その中でも A評価【そう思う】と回答している児 童の割合は、昨年度よりも12ポ イント上昇した。一方で、保護者ア ンケート(回答数230名)「お子さんは すすんで運動に取り組んでいる。」 の項目では、保護者の80%の肯 定的評価が得られたが、昨年度と 比較すると17. 4ポイント低下して いる。学校では、学期ごとに「持久 走」「短縄」を取り入れ、本校の課 題である持久力や敏捷性の育成と 体力の向上を図っている。今後も 活動内容を工夫したり、体育委員 会が体力向上を目指した遊びを提 供したりしながら、健やかな体の育 成を目指して努めていく。	A	14	・毎年改善を求めています但对 応してよい姿勢に変えて頂きたい ですね。 ・「個別目標2」と『目標に対す る成果指標』欄のコメント及び 「これまでの取組、今後の改善 策」とには、ズレを感じます。成 果等は、「取組内容④」に特化 したものになっています。将来 の国際人の礎となる基礎教育 における外国語教育は小学生 レベルでは、読み書き中心で はなく、会話が重要と感じま す。その為には、日常的に外 国語に接する機会、例えば昼 休みの時間帯にラジオの英語 のニュース(FEN等)を校内に流 すとか、英語の歌詞の入った 音楽を流すとかして、とにかく 耳にならす必要があります。 ・自己受容できているとまわり の人との関係も良くなりますか ら、とても大切なことですね。 ・国際都市大田を担う子どもた ちにとって人権教育や外国語 教育に積極的に取り組んでい る姿勢はとても良く分かり、分 析は妥当であると思われます。 ・児童の自己肯定感を高める 活動は、良いと感じるが、「世 界とのつながる国際都市おお たを担う人材を育成します。」と どうつながるのかが不明瞭で ある。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	B	3	・現代において相手を認め、尊重すること。相手の良いところを見つけ、伝えること。自分の良いところを認識し、自己肯定感を高めることは、非常に重要な課題であると認識しています。さらに取組を進め、自分や相手に優しくなれる世界に繋がって行くと嬉しいです。 ・羽田空港に近く、外国籍の方々が暮らす地域として、他国の方々と交流し、多くのことを体験できると存じます。国により、考え方、生活習慣の違いもあり、そのことを理解し、人権を考慮しながら、豊かな国際感覚の育成に役立たせてほしいと存じます。 ・ハッピーボードは、相手を認	
		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。				4	3: 80% 以上	C	1	
		②学習習熟度に応じた 指導や個に応じた学習 支援、各種検定の実施 を通して、すべてのこ どもに確かな学力の育 成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	2: 70% 以上	D	0 無 答 1
		③体育や保健体育の 授業など様々な機会を 通して、健康教育や食 育を推進し、基本的な 生活習慣の確立を図っ ている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	1: 70% 未満		
		④乳幼児期から中学校 まで円滑な接続を行う ため、保幼小の連携や 小中一貫の視点に立つ た教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3								

個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「子どもたちにとって、授業の内容がわかりやすいものになっている。」に回答した割合	4:90%以上	・保護者アンケート(回答数230名)の肯定的評価は94.4%であった。昨年度より4.4ポイント上昇した。児童アンケート(回答数491名)「授業の内容はよく分かる。」の肯定的評価は91.2%であり、こちらも昨年度より3.5ポイント上昇した。毎年、4・5・6年生を対象とした区の学力調査の結果を基に「授業改善推進プラン」(ホームページで公開)を作成し、各教科で重点的に取り組む内容と指導方法の改善を行ってきた。 ・大田区では中学校区を中心に、小中一貫教育を行っている。本校は蒲田中学校区にあり、新宿小学校と3校で連携している。小中一貫の研究テーマを「ICT機器を有効に活用した授業」に設定し、互いに授業公開を行っている。互いの立場からの参観を通し、研修を深めている。今後も様々な研修会やOJTを通して、効果的な活用方法を定着させ、児童の学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、教職員の授業力向上を図っていく。 ・本校では会議の精選、ICTによる情報伝達、先を見越した行事計画、朝学習を活用した授業計画等、年間を通して徹底を図った。そのため毎日の授業づくりに費やす時間の確保ができるようになった。教員アンケートでも「おおむね高まっている。」と全教員が回答し、子どもたちと向き合う時間を捻出することに繋がった。引き続き、教職員の業務適正化に取り組んでいく。	A	14	・回答しなかった保護者に目を向ける事も大切ではないでしょうか。大切なものを忘れてしまっているように思います。 ・教員の負担が、過度に増えないように願います。 ・10年以上支援地域本部で活動をさせて頂いてますが、今が一番子どもたちと向き合っているように感じます。 ・ICTの導入、活用は児童にも教員にも効率良く授業を進める結果に繋がったのではないかと考えます。引き続き効果的な活用を行って、お互いにとって、メリットになる形になるとよいと思います。 ・中学校と小学校の連携の小中一貫の取組の成果が、表れたことで、肯定的評価上昇につながり、喜ばしいことと存じます。陰での努力と取組み実を結んで、学校の運営力が向上し、先生方もやりがいをもって、指導することができるのではないのでしょうか。 ・ある意味閉鎖的な学校環境にあっては、先生方の人間性と人間力が子どもたちの成長には、一番欠かせないと考えます。どうか若い先生方が、更に子どもたちが成長を考え、悩み、懸命に努力していただけますよう宜しくお願い致します。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上		B	2	
		③教職員の業務適正化等に取り組む、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:70%以上		C	2	
		④子どもたちが楽しく登校できるよう、元気に接したり、寄り添ったりしている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1:70%未満		D	無答1	
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えようと、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケート「困りごとや不安を先生や学校にいる大人に相談できる。」に肯定的に回答した割合	4:90%以上	・児童アンケート(回答数491名)の肯定的評価は78.2%であった。「相談体制」については、保護者の87.8%が肯定的な評価をしている一方で、児童アンケートでは8割を下回った。毎年6月と11月に、児童の学校生活における悩みや学級満足度等を早期に発見するための学級集団調査(hyper-QU)を実施した。また、児童一人一人の心理的状況を把握するため、定期的な学校生活アンケートの実施や、スクールカウンセラー等による面談を行い、児童の心に寄り添う指導に努めた。子どもたちが安心して学校生活を送れるように、これまで以上に児童理解を深め、いつでも相談に応じる体制を整えていく。 ・いじめへの組織的な取組をしている教員は100%である。いじめの未然防止のための学級指導や早期発見に努め、いじめが発見された場合にはいじめ防止対策委員会を開いて対応について検討し、全校で共有して対応した。年度初めにおける教員への研修を強化し、これからも全教員が対応できるようにする。	A	12	・末端までに伝わる分かりやすい。話しやすい環境設定ができると良いと思います。 ・取組評価(3～4)と成果評価(2)とで乖離が見られます。児童アンケートの78.2%も水増しのきらいが感じられます。実態はもっと低いのでは？集団調査ではなく、日常的に個々の児童の行動をフォローするシステムの構築を望みます。 ・集団でのルールを強化するのではなく、個々の行動範囲で、「越えてはいけない部分」をしっかりと教示されることを望みます。 ・昭和30年代は、東京では沖縄に対する差別があり、沖縄の名前を有する私は、いじめの対象でした。いじめられた経験のある者にしかわからない辛さがあります。そのようなことが無いように、ご指導をお願いします。 ・1クラスに約40名という児童を抱える先生が、その一人一人の満足いくような「相談体制」を整えていくことは困難に思いますが、やはり児童にとっては最も身近な先生に相談をしたいという思いがあるのだと感じます。難しい問題ですが、分析に関しては妥当だと思います。 ・先生方の研修、また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携し、一人一人を大切に指導や支援を行ってくださっていることが分かりました。いじめ防止にも全校で共有し対応してくださっているようで、児童・生徒も安心して、学校生活をおくりことでしょう。 ・いじめ等については、社会の投影であると思います。特に、日本では、陰湿ないじめが多いとか？私達も応援、協力して防止、そして絶滅してゆけるよう頑張ってくださいと思います。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上		B	5	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:70%以上		C	2	
		④教育相談機能が充実するよう、学年や学年等、組織的に対応している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1:70%未満		D	0	
環境別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「学校で安心・安全に過ごすことができています。」に肯定的に回答した割合	4:90%以上	・児童アンケート(回答数491名)の肯定的評価は89.7%であった。また、保護者アンケート回答数230名「学校は安心・安全な学習環境づくりを進めている。」でも、91.3%が肯定的な評価であった。毎月1回、地震や火災、不審者対応に関わる避難訓練や、校内や登下校中におけるけがを防ぐための安全指導日を設定している。さらに、毎週月曜日に一週間の生活目標を伝え、全校で取り組むことで安心・安全に学校生活を過ごすことができるようにしている。また、学校のすべての部屋と場所に教職員からなる火元責任者を設置し、毎月1回異常がないか点検項目に沿って確認する安全点検を実施している。	A	14	・下校途中のトラブルについて、今以上の指導をお願いします。 ・特にありません。 ・かねてよりお伝えしているように通学路が安全だとは思えません。 ・児童向けのアンケートの設問を見ると、「物理的な安心・安全」と共に、「精神的な安心・安全」という面も含まれてしまうのかなと感じました。全学年が分かるように設定すると、仕方のないことかもしれませんが、肯定的評価の87.8%の要因には、上記のようなこともあるかもしれないと感じました。 ・毎日安心で安全な学校生活が送られていることは、先生方の努力とサポートがあることを改めて感謝申し上げます。 ・災害から子どもたちをどう守るか？私も一生懸命に考えて行きたいと思います。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上		B	4	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:70%以上		C	1	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1:70%未満		D	0	
個別目標7 地域・学校・家庭・地域と連携・協働による学び	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「学校は地域・保護者と連携して、特色ある教育活動を実施している。」に肯定的に回答した割合	4:90%以上	・保護者アンケート(回答数230名)の肯定的評価は85.2%であった。昨年度から新型コロナウイルスの感染対策が緩和され、コロナ禍で数年間自粛されていた様々な学校行事やPTA行事が再開した。学校支援地域本部の協力を得て、朝遊び、読み聞かせ、夏のわくわくスクール等、多くのサポートを提供していただき、地域・保護者と連携した教育活動を充実させている。 ・地域教育連絡協議会を年3回実施するとともに、各種行事や学校公開等を通して、学校の取組や児童の様子を御覧いただいた。児童アンケートや保護者アンケートの結果をデータとして示し、御意見や学校の評価について判断していただく。また、来年度は、コミュニティ・スクールとして、学校運営に地域や保護者の皆様のご意見をこれまで以上に反映させるとともに、学校・家庭・地域が互恵的な連携関係を構築し、保護者・地域と共に子どもたちを育てるコミュニティ・スクール蒲田の実現に努める。	A	13	・学校と地域が必ずしも互恵的な連携関係を維持できているとは、感じていません。学校支援地域本部がありますが、地元の自治会とは全く連携がなく、また、自治会としては、その活動内容も分かっています。同様に地域自治会とPTAとも全く連携はありません。逆に自治会としては、何をすべきか？学校側は地域自治会に何を求めているのか不明確です。この問題については、主体は学校にあり、地域・自治会は受け手と理解しています。 ・もう少し地域とPTAが結びつければ良いのにと感じているので、コミュニティスクールに期待します。 ・蒲田小学校は左記に挙げている活動を含め、多くの地域の方々が関わっていると思います。また、長く地域に住まわれている方からも愛されているため、充実した学習活動に繋がっていると感じます。 ・ほとんどの児童たちが、一人一人の状況に合わせて、御指導を受け、充実した生活が送れているようです。地域として、できること協力を行いたいと存じます。 ・これからの課題として、一緒に取り組んで行きたいと思います。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:80%以上		B	5	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:70%以上		C	1	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1:70%未満		D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。